

職業奉仕月間に寄せて

2025-26年度 国際ロータリー
第2660地区 ガバナー

吉川 健之
(大阪北RC)



1月は職業奉仕月間です。本年度のスローガン「UNITE FOR GOOD (よいことのために手を取りあおう)」は、まさに職業奉仕の核心そのものです。私たちが日々の職業で培ってきた専門性・信用・ネットワークを、地域と世界の「よいことのために手を取りあって」活かす。これがロータリーの原点であり、最も私たちに貢献のかたちです。

職業奉仕はしばしば抽象的と言われますが、その土台は明快です。ロータリーの目的第2項は「職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会として各自の職業を高潔なものにすること」と定めています。さらに「四つのテスト」は、意思決定の現場で自らを律する簡潔な羅針盤です——①真実かどうか、②みんなに公平か、③好意と友情を深めるか、④みんなのためになるかどうか。これらは理念の標語ではなく、職場の毎日の選択を支える行動基準です。

では、本月間に何を実践するか。私は次の五点を地区共通のアクションとして提案します。

① 例会で「四つのテスト・ケース5分間」——

会員の皆さまが直近の業務判断を一つ持ち寄り、四つのテストで振り返る。

② 次世代メンタリング——

若手社員・学生を対象に、キャリア相談や現場見学を各クラブで継続化する。

③ 倫理と透明性の再点検——

ハラスメント防止、利益相反、生成AIの適正利用、個人情報・知財の保護など、組織の要所を見直す。

④ 地域とともに学ぶ——

中小企業やNPOと連携し、サプライチェーンの人権・環境配慮や安全文化の強化を進める。

⑤ 職業スキルの提供——

クラブや地区の奉仕プロジェクトに専門性を直接投入し、成果の測定(指標化)まで伴走する。

AIやデジタル化、国際情勢の変化が速い時代だからこそ、私たちの「高潔さ」はこれまで以上に価値を持ちます。締結する契約一つ、交わす言葉一つ、掲載する情報一つが、顧客・取引先・従業員・地域社会の信頼を左右します。ロータリアンが先んじて誠実・説明責任・公平性を体現するとき、職場は強く、地域はしなやかになります。ガバナーとして、地区のすべての会員が自らの職業を通じて「見える奉仕」を積み上げ、成果を仲間と共有する一年にしたいと願っています。

「UNITE FOR GOOD」を合言葉に、私たちの専門性を束ね、よいことのために手を取りあいましょう。行動は小さく、しかし継続的に。四つのテストを胸に、今日の職場から、明日の地域へ。皆さまと共に、職業奉仕の力で第2660地区から確かな希望を生み出してまいります。

これからの予定

1月24日(土) 財団地区補助金管理セミナー

1月29日(木) 例会/職業奉仕委員会クラブフォーラム

1月31日(土) 大阪難波RAC創立5周年記念式典

2月5日(木) 例会・定例理事会

2月7日(土) 地区チームラーニングセミナー 2月12日(木) **休会**

2月13日(金) IM第4組会長幹事会(金輪会) 2月19日(木) 例会

2月21日(土) 米山奨学生修了者終了式・歓送会

WEEKLY BULLETIN

OSAKA NAMBA

大阪難波ロータリークラブ週報

よいことの
ために
手を取りあおう

Rotary

2025-2026年度 国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツツォ
会長メッセージ「よいことのために手を取りあおう」
(第2660地区ガバナー 吉川 健之)

今日の卓話	次回の卓話	ロータリー4つのテスト
1月22日(木) テーマ 「自己紹介『私の仕事』」 卓話者 河井美由紀会員	1月29日(木) テーマ 職業奉仕月間卓話 「昨今の安全保障環境と 自衛隊の取組みについて」 卓話者 安田 百年氏 卓話担当者 藤原秀之職業奉仕委員長	言行はこれに照らしてから 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

第25回例会 本日のプログラム

開 会 (点鐘) 通算第2301回例会
・ロータリーソング「われら日本ロータリアンの歌」
・歌 岡本優香さん
・ピアノ 倉田葉名さん
高山理帆さん(交替制)
・来客紹介 友好委員
会 食
・会長報告 立花英司会長
・幹事報告 清水一人幹事
・委員会報告 各委員長
・出席報告 出席委員
・ニコニコ箱報告 S A A
・卓話

閉 会 (点鐘)

♪ われら日本ロータリアンの歌

われら日本のロータリアン
一つの仕事をする時も
真心こめて考える
これは誠か真実か

ニ コ ニ コ 箱 報 告	
前 回 の 合 計	¥ 6 5 , 0 0 0
本日までの累計	¥ 3 , 3 4 9 , 0 0 0 (111%達成)
1月末の予算額	¥ 3 , 0 0 0 , 0 0 0

出 席 報 告		
前 回 1 月 1 5 日		3 週 前 1 2 月 1 1 日
会 員 総 数	8 0 名	出席免除を除く MUを含む 修正出席率87.17%
出 席 会 員 数	5 5 名	
出 席 率	7 3 %	

大阪難波ロータリークラブ 例会日時 毎週木曜日 12:30
創立 1976年8月5日 例会場 スイスホテル南海大阪7階 芙蓉の間
会長: 立花英司 幹事: 清水一人 会報・雑誌委員長: 大塚哲平 事務局: 安部亜希子
事務局 〒542-0076 大阪市中央区難波5-1-60 スイスホテル南海大阪5階
TEL 06-6632-3956 FAX 06-6632-3957 e-mail osaka-namba@poem.ocn.ne.jp

1月は「職業奉仕月間」です

前回の記録 第24回 1月15日(木)

★来客紹介：内園友好委員

ゲストスピーカー 安藤嘉康様
東京渋谷RC 児玉知浩様
米山奨学生 菅 新寧さん



安藤嘉康様 児玉知浩様 菅新寧さん

★会長報告：立花会長

1. 今年に入って寒くなって来ましたが来週はかなり気温が下がるようです。またインフルエンザも流行り出すそうですので、しっかりと手洗い、うがいを行って頂き予防して下さい。少し気持ちわるいのですが、鼻のうがいが予防には良いそうですので是非鼻のうがいもやって頂いてご自愛して頂きたいと思います。
2. 今月は職業奉仕月間です。この後、藤原職業奉仕委員長からご案内があると思いますが、今年度の職業奉仕フォーラムは1月29日に自衛隊の伊丹駐屯地に見学をさせていただきます。伊丹の駐屯地は11年前に職業奉仕フォーラムで訪問させて頂いていますが、前回とは、伊丹駐屯地の方も見学する内容も変わっていると聞きしておりますので楽しみにして頂きたいと思います。今回も岡西元会長にご尽力いただき、藤原委員長が大変ご苦労して打ち合わせを重ねてのフォーラムとなりますので、是非沢山の皆様に参加して頂きたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。
3. 最後にロータリーの一言をお伝えさせていただきます。仕事とは、生活の為だけではなく、誰かに喜んでもらい暮らしをそっと支える力でもあります。目の前の一つひとつの仕事に誠実であろうとする事で十分に奉仕になるのだと思います。本日の一言は、「誇りをもって働く姿は、静かな職業奉仕のかたち」です。

★幹事報告：清水幹事

1. 本日の週報に、定例理事会の議事録を掲載させていただいておりますのでご確認ください。

★委員会報告

◇クラブ会報・雑誌委員会：岡野委員
「ロータリーの友1月号のご紹介」
P3.「職業訓練にとどまらない奉仕」



◇職業奉仕委員会：藤原委員長

クラブフォーラム及び懇親会のご案内です。バスで伊丹駐屯地へ行くことになりました。ご参加よろしくお祈いします。



★ニコニコ箱報告：松井副SAA

東京渋谷RC児玉知浩様：本日は吉田副会長のお誘いで渋谷から参りました。よろしくお願いします。



立花英司：安藤様、本日卓話よろしくお祈いいたします。

清水一人：皆様ケガにはお気をつけてください。11月に中指を剥離骨折したままゴルフをした結果、今もまだ骨がくっついていません。反省。

大地庸元：遅まきながら明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いします。

千田忠司：本年も宜しくお願いいたします。

松井 潤：例会欠席お詫び。

田中浩弥：本日の卓話、安藤社長よろしくお祈いいたします。

柴田 充：今年もよろしくお願いします。

西村勇二：誕生日のお品、ありがとうございました！

池上裕也：1回目の例会欠席すみませんでした。今年もよろしくお願いします。

★大阪難波RACへのニコニコ箱報告

累計¥252,000

★卓話 テーマ「先端ロボティクスを活用したソリューション事例
～CASE of iROBOTICS, Inc～」
卓話者 安藤 嘉康様
卓話担当者 田中浩弥会員

皆さん、こんにちは。iROBOTICS代表の安藤です。本日はお招きいただきありがとうございます。冒頭の写真は大阪メトロ四ツ橋線の駅で、終電後から始発まで実質2時間半の間に、一駅まるごと点検した事例です。従来は駅を1週間閉鎖して天井をはがし調査していたものを短時間で実施でき、2020年に朝日新聞でも取り上げていただきました。私は大阪芸大出身で、誰もやったことのないことを0→1で立ち上げる仕事を続けてきました。プロジェクションマッピングや大型プロジェクトなど様々経験してきましたが、基本は専門家や企業とのネットワークで課題を解決する「共創」です。その延長で、3.11をきっかけに、人が入れない施設の調査や除染を支えるロボット・通信・電源などの技術開発に関わり、産業用途へ展開する形で会社を立ち上げました。今、労働人口減少、老朽化、安全確保、資材高騰、カーボンニュートラルなど、現場の課題は増える一方です。我々は機械化・遠隔化・自動化・DX化で解決する「ことづくり」をしています。点検は撮影して終わりではなく、問題箇所の特定、分析、レポート、修繕までがミッションです。足場を組んでから確

認する従来方式に対し、ドローンやロボットなら足場なしで把握でき、必要箇所だけをピンポイントで作業できるため、コストと工期を下げられます。鉄道や製鉄所などは止める損害が大きいのので、トータルコストで計画することが重要です。また、屋内のようにGPSが使えない場所でも運用でき、360度カメラでスクリーニングし、4Kで詳細撮影、3Dモデル化して位置情報と変状情報を紐づけ、専門家が診断してレポートまで仕上げます。データを残せば次回点検で差分検知ができ、劣化の進行も瞬時に把握できます。さらに高圧洗浄や塗装など物理作業まで踏み込み、目的に合わせて機体やセンサーを使い分けています。ドローンはショーや空撮だけでなく、産業の点検・診断・修繕を一気通貫で変えられる技術です。商業施設や工場などでお困りごとがあれば、ぜひお声がけください。



東京渋谷RCの児玉知浩様とバナー交換を行いました。

1月 結婚記念日 おめでとうございます

1月 3日 宮本倫明会員ご夫妻